

彩の歳時記

平成二十四年

八月

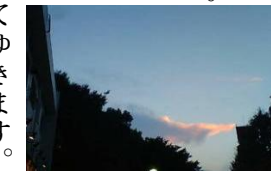
夏夜追涼 楊万里
 夜熱依然午熱同
 開門小立月明中
 竹深樹密虫鳴処
 時有微涼不是風

夏の夜、涼を追う 楊万里
 夜熱は依然として午熱に同じ
 門を開き小立つ月明の中
 竹深く樹密にして虫鳴く処
 時々に微涼有り
 是れ風ならず

夜になっても、依然として真昼時のままの熱気だ。門を開いて外に出て暫く月明の中に立つ。竹や樹がみっしりと繁る辺りで、虫が鳴いた。その時、ふと涼しさが漂ったが、べつに風が吹いたわけでもないのだ。

楊万里【1127～1206】は南宋の三大詩人の一人。俗語を大胆に採り入れ、軽妙な表現と意表をつく発想が特色で、一茶の世界に通じると言われます。

この詩の結句のような繊細な感覚は、日本の和歌や俳句の味わいに似た感受性とも。中国三大ボイラーと言われる、重慶、武漢、南京がある長江流域での作と思われ、暑さが一層強く感じられます。しかし、八月の声を聞けば、歳時記の季節は秋、季節は確かに移ってゆきます。



八月の異称

葉月 木の葉が紅葉し落ちる月「葉落ち月」に因る。秋風月、雁来月、古くははつき。季語は秋。

八月の暦

一日 八朔(はつき) 八月朔日(ういたち)を略して、こう呼ぶ。旧暦の行事で、初穂が実る頃、それを恩人などに贈る習慣があった。果実のハツサクは、江戸時代尾道市因島町で発見されてから栽培が始まった。

五日 圓朝まつり

「圓朝忌」として、江戸・東京落語の大名跡・初代三遊亭円朝【1839～1900】の



命日の十一日に墓がある谷中・全生庵で行われていた法要。今年から全生庵裏手の防災広場・初音の森にて若手落語家を中心になり開催される。今に伝わる人情話「芝浜・文七元結など」は彼の創作で、近代文学言文一致の推進者「二葉亭四迷」にも大きな影響を与えた。

六日 広島原爆の日 1945(昭和20)年8時15分、米軍B29爆撃機が世界初の原子爆弾を投下。14万人の死者、その後の犠牲者を含めると25万人が犠牲となった。この日、広島原爆慰霊堂で世界平和祈念の宣言がおこなわれる。



夏祭の季節

東北の祭は、旧暦の七夕を起源とし、稲の豊作を祈る行事と一体化したと言われる。

青森ねぶた 2日から7日 秋田竿燈。 8日から6日 仙台七夕 6日から8日
 高知よさこい 9日から12日 阿波踊り (徳島市) 12日から15日
 郡上おどり (郡上市) 13日から16日



七日 立秋【二十四節気】 秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる 古今集
 九日 長崎原爆の日 広島の日 三日後の11時2分、原子爆弾投下。広島のプロルトニウム爆弾より強力なウラン爆弾で、死者七万人、その後、十五万人に及んだ。

十五日 戦没者を追悼し平和を祈念する日 1939年から1945年までの第二次世界大戦が多くの犠牲者(一般市民を含めると300万人以上)の上に終結した日。

二十三日 処暑【二十四節季】 暑さが収まる頃。昼はまだ暑い、夜は涼しく。
 三十一日 二百十日【雑節】 立春から210日目 嵐の襲来の時期。夏目漱石の中編『二百十日・野分』は、阿蘇を舞台に卑俗な世相を痛烈に批判した作品。

八月の歌

故郷 1914(大正3年)尋常小学校第六学年用

詞は高野辰之【1876～1947】、曲は岡野貞一【1878～1941】。友がき(友垣)とは、友だちのこと。垣をしっかりと結ぶように、人との交わりをこう例えた。現在、復興支援のコンサートなどで最後に合唱する定番曲となっている。同じ作詞作曲者の『朧月夜』『春の小川』等と共に文部省唱歌を代表曲。



兔追いし彼の山
 小鮒釣りし彼の川
 夢は今も巡りて
 忘れ難き故郷
 如何にいます父母
 恙無しや友がき
 雨に風につけても
 思い出づる故里
 志を果たしていつの日にか帰らん
 山は青き 故郷
 水は清き 故郷